



字小祿財産管理運営会
理事長 高良 太郎

師走に入りまして肌寒い季節になりましたが、会員の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、去った8月26日から27日に亘り、在ブラジル小祿田原字人移民渡伯100周年記念祝典が盛大に開催されました。

字小祿田原地域からブラジル移民は今から100年前1971年20家族39人の先陣に始まり、後続移民が多数移住しています。先陣達の移住後、現在に至るまでそこそ想像も出来ない程、幾多の困難な事があつたでありましょう。文化と言葉や気候、風土の相違等、苦難という言葉だけで言い表せない程、厳しい環境の中をウルクンチュ・タバルンチュ特有の相互扶助の精神で以って、互いに援助し合い励まし合つて、無事難局を乗り越えてこられた事と思います。今日のこの確固とした基盤を築き上げられた、先駆者や先輩方の強い忍耐と努力に対しまして心から

編集と発行：字小祿財産管理運営会広報委員会
字小祿財産管理運営会
〒901-0152 沖縄県那覇市小祿5丁目4番地6
TEL.&FAX 098-858-2843
website <http://www.azaoroku.com/>



敬意を表するものであります。今や若い世代に入つて政界、財界、教育はもとより、各分野に於いても目覚ましい御活躍をいらつしやることは、字小祿田原の誇りでもあります。

このように先輩方が築いて来たこの豊かな社会を今後は2世3世4世の皆様が正しく受け継ぎ更に向上発展することを願つて居ります。

字小祿財産管理運営会は、祖先の遺産並びに財産を管理運営すると同時に当該財産を基礎にして字小祿関係諸団体の会員の福祉の向上及び教育、文化の振興のため有効に活用し、もつて字小祿の発展に寄与することを目的とすることから、私達は会員の福祉の向上と社会教育は青少年の健全育成を始め人材を育成して、字小祿自治会、那覇中央部字小祿人会、山下町字小祿人会、字小祿の門中、そして海外はブラジルやハワイをはじめ世界各国のウルク・タバルンチュと地元字小祿財産管理運営会が連携を密にして、いつまでも末長く継続発展をしていくためには、人造り特に国際的な視野を持った若い人材を育成したいと思つて居ります。むすびに、在ブラジル字小祿田原字人移民渡伯100周年記念祝典を盛り上げるた

めに地元の字小祿田原から45名の皆様にご参加して頂き、ブラジルでは熱烈歓迎されております。

おかげ様できつと所期の目的が達成されたと思ひます。また、8月と申しますと沖縄では夏真っ盛りでした。しかしブラジルは冬と聞いて居りますから寒かつたと思ひますが、ブラジルの自然と風景、

伝統文化や歴史等、見聞をして新しい発見大きな発見が出来たと思ひます。また、招待者はブラジル社会を観察して頂き、資質の向上にもつながつたと思ひます。今後は海外との親善交流の掛橋となる人材として頑張つて下さい。

そして去つた11月26日、ブラジルより那覇市への研修生(屋号・下門) 照屋ウーゴタケジさんの歓送迎会を盛り上げて頂き本場にありがたく感謝を申し上げます。



ブラジル

字小祿田原のブラジル移民周年記念祝典に併せて小祿・田原と絆を深めていくために、ブラジル有志のご厚意で2012年、2017年(今年)、計8名の招待者を受け入れし

ていただきました。

今年も募集した中から小祿から3名、田原から1名派遣しました。招待された字小祿の3名にブラジルでの感想を掲載いたします。

ブラジル派遣を通して



上原 岳文
9班・入内間小(三男)

2017年8月18日から31日までの14日間、私を含む3人の招待者は、サンパウロを中心に、ブラジル各地を訪れました。日本の国土の約23倍という数字が表すように、ブラジルでの経験は日本でのそれとは全くスケールの違うものばかりで、毎日が驚きの連続でした。

ただ最も驚かされたのは、サンパウロの景観やイグアスの雄大さではありません。小祿田原字人移民から100年が経過し、3世・4世が中心のブラジル社会においても、廃れることなく脈々と受け継がれてきた、彼らの沖縄に対する強烈な郷土愛です。私は方言をまともに話せません。三線を弾くこともできません。エイサーを躍つたのは15年近く前が最後ですし、琉球舞踊は踊りたいと思つたことすらありません。しかし彼らは、

沖縄出身の私より遥かに沖縄の伝統や文化に熱心でした。沖縄から遠く離れたブラジルで、当然の様に繰り広げられる「うちなーぐち」での会話。沖縄でもなかなか見ることができないような伝統芸能の数々。沖縄からブラジルに行つて私の中に芽生えたものは、楽しかつたという高揚感やまた行きたいという好奇心よりも、沖縄の伝統や文化への無関心、つまり、自身のルーツに対する無関心への悔しさでした。

このような自身のルーツに対する無関心というのは、私個人の問題だけではなく、小祿の、延いては沖縄の問題とも言えるのではないのでしょうか。数十年前まで小・中学校で行われていながつたエイサーや三線、旗頭が、今日では教育の一環に位置付けられています。これらは沖縄の伝統文化の衰退という問題を如実に表しており、そもそもこの問題の根源は、沖縄にルーツを持つ人々の、自身のルーツに対する無関心だと私は考えるからです。

この問題の解決策を明確に提示することは私はできません。ただ、今回ブラジルでの経験をを通して何か行動を起こさなければならぬと感じています。そこで、まずはブラジルでの経験や私が感じた問題点を身近な人に伝え、この問題に目を向けさせることから始めようと思ひます。ルーツへの関心を高めるためにすべきことは、この問題を個々

人が考えることだと考えるからです。そして、1人でも多くの人が自身のルーツについて考える機会が増えればと考へます。

今回ブラジルに行きたかつたけれど行けなかつた方、そもそも行きたいと思つてすらいなかつた方が、これを読んでも少しでもブラジルやその他多くの国のウチナンチュに興味を持ち、更には自身のルーツを考える一助となれば幸いです。

ブラジルに想いを馳せて



新垣 志津江
1班・東り前大屋小
二男の長女

那覇空港で家族や多くの方々から見送られて23時間余・・・やつと着きました。ここは地球の裏側南米ブラジルサンパウロ空港。いや〜遠かつた！今回の訪問は「ブラジル小祿・田原字人・100周年記念祝典」の栄えある招待者としての訪問です。しかし、23時間余のフライトでも自分も含め皆さんバテバテなのに、100年もの昔の古(いにしえ)の先人達の偉業には想像もつかないほど感銘します。勿論、当時は飛行機なんて物は飛んでいない時代ではなく、2ヶ月間もの長期間も快適と

